

平成21年度 学校自己評価システムシート (県立 川口北 高等学校)

目指す学校像	進学校としての躍進(NEXT NEW STAGE川北) ☆ 高い志のもと、進学校としての「確かな学力」と、「健全な心身」を養う。 ☆ 文武両面において高いレベルで調和のとれた生徒の育成。
--------	---

重点目標	1 進路指導の充実 2 生徒の高い志をかなえる授業・補講の充実 3 開かれた学校づくりの推進(H22入試制度への対応を重点に)
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月25日現在)		
年度目標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	<ul style="list-style-type: none"> 約90%の生徒が現役で大学進学をしている。進学指導総合推進事業の指定を受け、学力向上委員会を中心に、進路指導の工夫改善に取り組んでいる。さらに進路に関する満足度を上げ、第一志望の進路実現のため、学校全体での組織的な取組と、生徒の勉学と部活動を両立し、進学に対する意識の向上が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な進学指導の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ①進学指導総合推進事業の計画を実践し、最終年としてのまとめを行う。 ②新学習指導要領をふまえて、教育課程の検討と年間行事計画の見直しを委員会を設置して進める。 ③外部模試、センター入試のデータ分析等、生徒の情報を研修会、検討会を実施して共有し、個々の生徒の進路指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①計画した事業は予定通り実行でき、来年度につながる事ができたか。 ②進学指導をより効果的に推進できる計画が策定できたか。 ③第一志望合格者は前年を上回ったか 	<ul style="list-style-type: none"> ①各事業はほぼ予定どおり実施でき今後の方向性についても短・中・長期とおおまかな方針を策定することができた。 ②「総合的な学習の時間」を見直し、次年度から33単位の増単位となった。年間行事計画については委員会を設置して検討を進めた。 ③全教職員の研修会は予定どおり3回実施、各学年ごとに模試データの研究会を実施し生徒の進路指導に活用できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①進路指導、教務、渉外、企画委員会等で短期、中期、長期の各課題について検討をしていく予定である。 ②平成25年度から実施の新教育課程編成に向けて全教科にわたり検討を進めていく。 ③職員の共通理解をさらに深め、全校での模試分析会や受験校検討会へと発展させていくことが今後の課題である。
2	<ul style="list-style-type: none"> 65分2学期制の実施、土曜補講・平日補講等の充実と環境整備を積極的に行うとともに、全教科で授業改善策を打ち出す等の努力を続けてきている。その結果、生徒の模擬試験結果も向上している。さらに、大学受験に対応できる学力をつけるため、教職員の授業力の向上が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善による学力、授業理解度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①研究授業を実施し、65分授業を活かした授業展開の工夫を各教科で実践する。 ②生徒の授業評価結果を受けた改善策を実践し、検証する。 ③県の委託を受け、学校間連携オープンテストを実践する。 ④補講講座の増設、出席管理申し込み方法を改善し、生徒の積極的な補講参加体制をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ①研究授業は5回以上開催できたか ②改善策を実践し、生徒の理解度は上がったか ③他校と連携し共に研修をすることができたか ④生徒が自ら積極的に補講に参加できたか 	<ul style="list-style-type: none"> ①公開授業週間を設定し、全教科計13の研究授業を開催した。 ②小テスト、予習・復習テスト、補助プリント等を活用した教科もあり、5教科のうち4教科で授業の理解度が向上した。 ③浦和西、熊谷女子高と連携し、英・国・数で問題を作成し、本校は2月13日実施 ④理科、社会も加え講座数が増加し、延べの受講者数も増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①他教科の研究授業も参観し、意見交換ができるような場を全体でつくるのが課題である。 ②引き続き具体的な改善策を教科全体で検討し実践する。 ③研修の成果を教科内に拡げて共有し、試験問題作成に活用していくことが肝要である。 ④土曜補講に出席しない生徒への対応策を考えていく必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開、学校説明会、中学校訪問、塾主催の説明会への参加、HPによる広報活動等、積極的に学校のPRに努めている。その結果、入試倍率も高水準を維持、また地域の本校への理解・協力も多く頂いている。平成22年度入試においても、着実な生徒募集に向けさらなるPRの工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者、受検生、全国に「川口北高PR」を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会等の実施方法を工夫し、22年度入試の説明と公開授業を実施し、学校のPRに努める。 ②よくわかる魅力ある学校ホームページを目指し、最新の情報発信に努める。また危機管理情報の伝達手段としての研究を進める。 ③保護者の声をアンケートを実施し聴取する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会は円滑に運営できたか。また参加者の満足度のいくPRができたか ②ホームページはよく活用されているか ③保護者の声を学校運営に活かしたか 	<ul style="list-style-type: none"> ①土曜補講の公開とミニ説明会を新たに計画し実施した結果、公開授業の参観者は前年度より倍増した。 ②ホームページのアクセス数は前年度より38,000件増、約20%の伸びである。また、インフルエンザ対応の情報伝達手段として活用できた。 ③11月に各学年2クラスで保護者のアンケートを実施し、分析した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会とミニ説明会の違いを明確にし、参加者のニーズにより対応しPRしていく事が課題である。 ②最新情報、行事、部活動等閲覧の多い分野を引き続き充実させていく。 ③今後も継続的に実施し、保護者の声を聞く姿勢を継続できるようにしていく。

学校関係者評価	
実施日	平成21年12月5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 進学指導に関係している分掌の評価がAであり、学年でもAなので評価Bは謙虚すぎるのではないかと。 進路意識の向上を早い時期から図ることが大切である。勉強マラソンのような行事に、1、2年生の早い段階で取り組んでいただきたいというのがPTAの意見である。 進学指導総合推進事業のうち先進校視察の報告の中で、「常に挑戦し続ける強い意志」「振り返りテスト」「自習室」「推薦を勧めない」の方策は本校の進路指導でも有効な策ではないかと。 	
<ul style="list-style-type: none"> この評価についても指標を満足している部分が多いので、評価を上げてよいのではないかと。 先進校視察の報告の中の両国高校の「授業を大切に」は授業中の集中力に繋がり、本校でも参考になるのではないかと。 補習に謝礼を出している学校もあると聞いたが、こういう問題も含め、PTAとして設備の充実に協力できればと思っている。 他校の取り組みが新聞記事などで取り上げられ宣伝されているが、本校も学校の取り組みなどをマスコミを使ってアピールしてもいいのではないかと。 	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートについては、改善しながら定期的の実施していくのがよい。PTAの会合では出ない保護者の意見などもわかる。結果を学校運営に活かして欲しい。 保護者アンケートの自由記述の部分を閲覧させてほしい。 私の勤務校では13の項目で実施している。保護者が意見を述べる機会になればと思っている。授業参観などの行事のときに回収するのが良いと思う。 	